梅の小屋まんが① 「こうして物語ははじまった」の巻

絵：山吹あらら

小豆島での出来事をブログで随時更新中です。ぜひご覧ください。 梅の小屋日記 検索

梅の小屋通信 Vol.1 創刊号
発行：(株)百工房／発行者：澤田 勲／発行日：2011. 5. 10

100-KOBO 株式会社百工房
http://100aged.net
info@100aged.net
［本　社］ 〒700-0953岡山市南区西市591-23
［絵画教室アトリエとしもり］ 〒703-8256 岡山市中区浜372-1-114

梅の小屋通信

Vol.1 創刊号
発行：(株)百工房／文責：歳森 勲／2011. 5. 10発行

「梅の小屋」とは小豆島にある古い建物です。画家、榎倉省吾氏のアトリエでした。現在は美術家の歳森勲が管理しています。

ここ「梅の小屋」は小豆島小豆島町の、内海湾を南に見下ろす高台にあります。晴れた日には、日の光が湾に照り返して眩いばかりです。近くに小豆島八十八箇所の、24番安養寺と25番誓願寺庵があり、時々お遍路さんの突く鐘の音が聞こえてきます。そして「梅の小屋」は、故榎倉省吾氏と千代氏の眠る場所であり、故榎倉康二氏や親族が頻繁に訪れた思い出の地です。

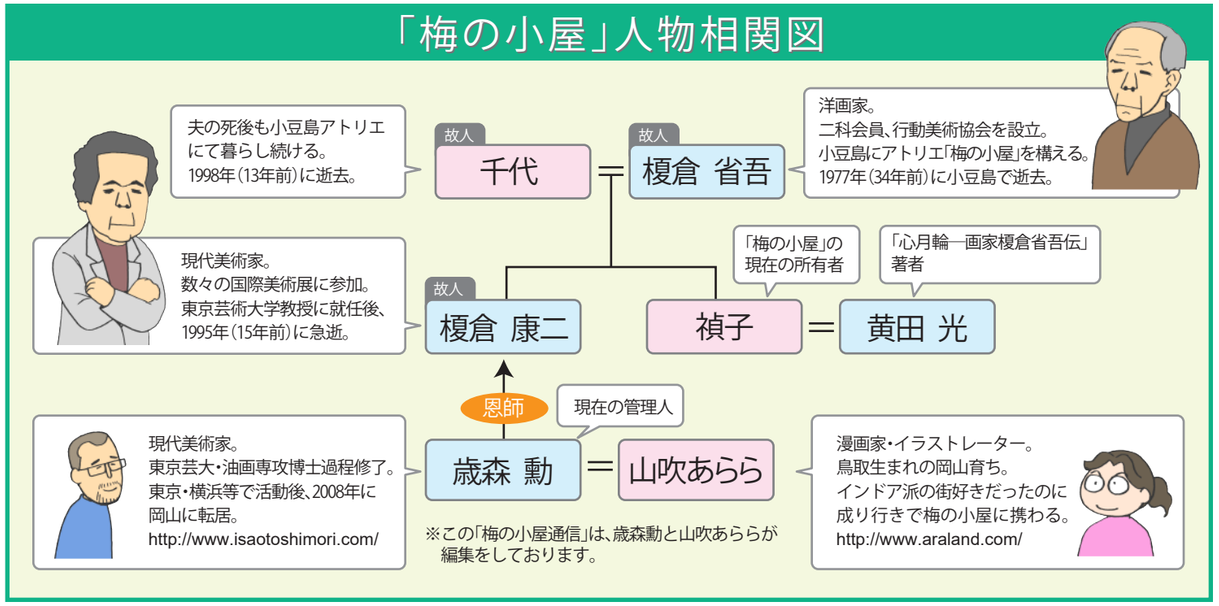
「梅の小屋」に私が関わり始めたのは一昨年前の12月、故榎倉康二先生の同僚である東京芸術大学教授にご紹介頂き、ご遺族と契約を取り交わしました。その後、家屋の改装工事を続け、早１年半となります。

「梅の小屋」は、のどかなほっとする場所です。「梅の小屋」の敷地内には、その名の通り梅の木がたくさんあります。

ここでの生活は、スローライフです。ゆっくりと船旅をし、井戸水を使い、かまどで煮炊きし、五右衛門風呂でアツアツになり、といった具合です。改装も、私及び有志が少人数で、楽しみながら少しずつ行っています。でもここに来るたびに、自然や思い出から「パワー」を頂ける気がします。

この場所の、二人の作家や家族の歴史を思うにつけ、「今後に何を繋いでいくことができるだろうか?」と考えています。未曾有の大災害が起こって、「何かできることは無いだろうか?」と思っています。

改装は継続中で、今のところおもてなしが出来る状態ではありませんが、今後作業を早め、「梅の小屋」を訪れていただくけるよう場所を整えてまいります。状況が許すならば、「梅の小屋」でささやかに榎倉省吾展を行いたいとも思っております。
では、今後とも皆様どうぞよろしくお願いします。

（歳森 勲）

「梅の小屋」人物相関図